青春少女は花と散る
DOJIN
R18
成人向け
コミック41ページ収録

はあっ♡
はあッ♡
はあっ♡
へへ…っ♡
はあっ
やめてっ
お願いっ
やめてっ
おじっ♡

ビッ
ビッ
ビッ
おじさんっ！
追い掛けて来ないでっ！
私何もしてないのにっ！
へへ…待てよお嬢ちゃんっ。

森の奥へと逃げた少女を追い詰める様に
声を掛けながら進む。
男はその少女の後を尾ける―。
『桜ちゃんはどこかなぁ？』
『捕まえたらレ●プしちゃうぞぉ♡』
少女は嗚咽を漏らしながら、
逃げ延びようとする。
『やだっ…やめっ お願いおじさん…っ』
鬼ごっこが始まる。
それは、言葉にならない程の恐怖だ。

それはある日の帰り道。
緑が綺麗だな…。
あれ…？
雨も止みそうだし
もうちょっと寄り道して帰ろうかな…。
田舎に住む私は緑豊かな
自然の中を歩く―。
チュン！
チュン!!!
小鳥のさえずりがやけに
激しかったが、観察してみる。

私の通学路は
3時間置きのバス停留所以外
ほとんど何も無いのだ。
ザワァ……
ザワっ
そんな辺鄙な田舎道を歩く人なんて
滅多に居ない筈――……。
は～っ♡
は～っ♡
ビッ
ビッ
ビッ
バキ…
ドキ…
その筈なのに、
なんだが男の人に
尾けられている気がする――。

少し距離を取ろうと
駆け足気味にバス停留所を横切る。
緩んだウエストが気になって
つい腰回りを触ってしまう。
そしてー

ビッ
ビッ
ビッ
カバッ
私の悪い予感は的中した。

月停
ビクンッ
ビグ
ビグ
ビグ

それは好きな人とって意味で…ッ!!
あっ♡
やめてよぉ…おじさんッ!
あっ♡
ヒクヒク
まあっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
水月停
バス停には小鳥のさえずりと
彼女の吐息が入り交ざる。
まあっ♡
まあっ♡
あっ♡
渡おじさんは
興奮しっぱなしだー。

この人は知っている―。
あぁっ♡
片道1時間掛けての登校である
私の田舎の在来線に乗り合わせる人だ。
ブルルッ♡
馴染みのある近所のおじさんだった―。
あ～
は～っ
あ～
んッ

ザラァァ…
桜ちゃん、ごめんね…
我慢出来ないんだ。
キャっ…おじさんっ！
やめて！お願いっ。
バッッ
オイっ
やめてよっ…おじさんっ！
ヤだ

はぁ～っ
サワ…
ふ～っ
ザワ…
逃げなきゃっ！
逃げなきゃっ！
あのおじさん
近所のあの人だ。
私の頭は
混乱して
真っ白になる。
はあっ
やばいっ
このままだと
レ●プされる！
絶対やばいっ！
ヴィ
ヴィ
ヴィ

がばっ
あっ♡
まあっ♡
はぁ…あっ…
まあっ♡
おじさんはそのまま私を押し倒す。
力任せの強行である。
ふ〜っ
ふ〜っ
ハァ…ッ
ハァ…
もわっ
ギュムッ
モギュッ

はあっ…
ビッ
ビッ
乱暴な挿入に
私はびっくりした。
はあっ…
ズッ
ズン
足を担がれ広げさせられる―
体勢が難しいのか
渡おじさんは私に指示する。
ビッ
もっと脚を広げ、
そして……。
パチュ
パチュ
パチュ
腰を突き出してくる！

あっ♡
あぁっ♡
あっ♡
あぁっ♡
やだっ!!
グイッ
おじさん、やだやだ…っ!!

私は必死に逃げようと
林の中を駆けて行く。
それでも追い掛けてくる渡おじさんの目は
私を犯●為に血眼になる。

ぁっ
トンッ
おじさんっ
ぁっ
ブッ
パンッ
パンッ
パンッ
ビュッ
ビュルッ
ビクッ
ビキュ
ビキュ
出るぞ桜。
ヌロロ…
ヌポッ…
ヌプッ
ズポッ
ぁー…。

ふむ…桜ちゃんのおまんこは
●校●年生なのにほとんど無毛だったか。
そんな…っ…あ
痛い……。
おじさん…っ。
とっくに同級生の凌くんと
ヤリまくって大人なおマンコになってたと思ったけど…
嬉しいよ桜。

誰かあっ！
誰かっ
くちゅ♡
くちゅ♡
ふへへ…
どこへ行く桜。
まだまだ終われないぞ。
立て桜…。

わたしは渡おじさんとキスしながら
同級生の凌と見せ合っこをしていた頃を
思い出した―。

抑え切れない青春は
桜にとってかけがえのない物だった
それなのに―。

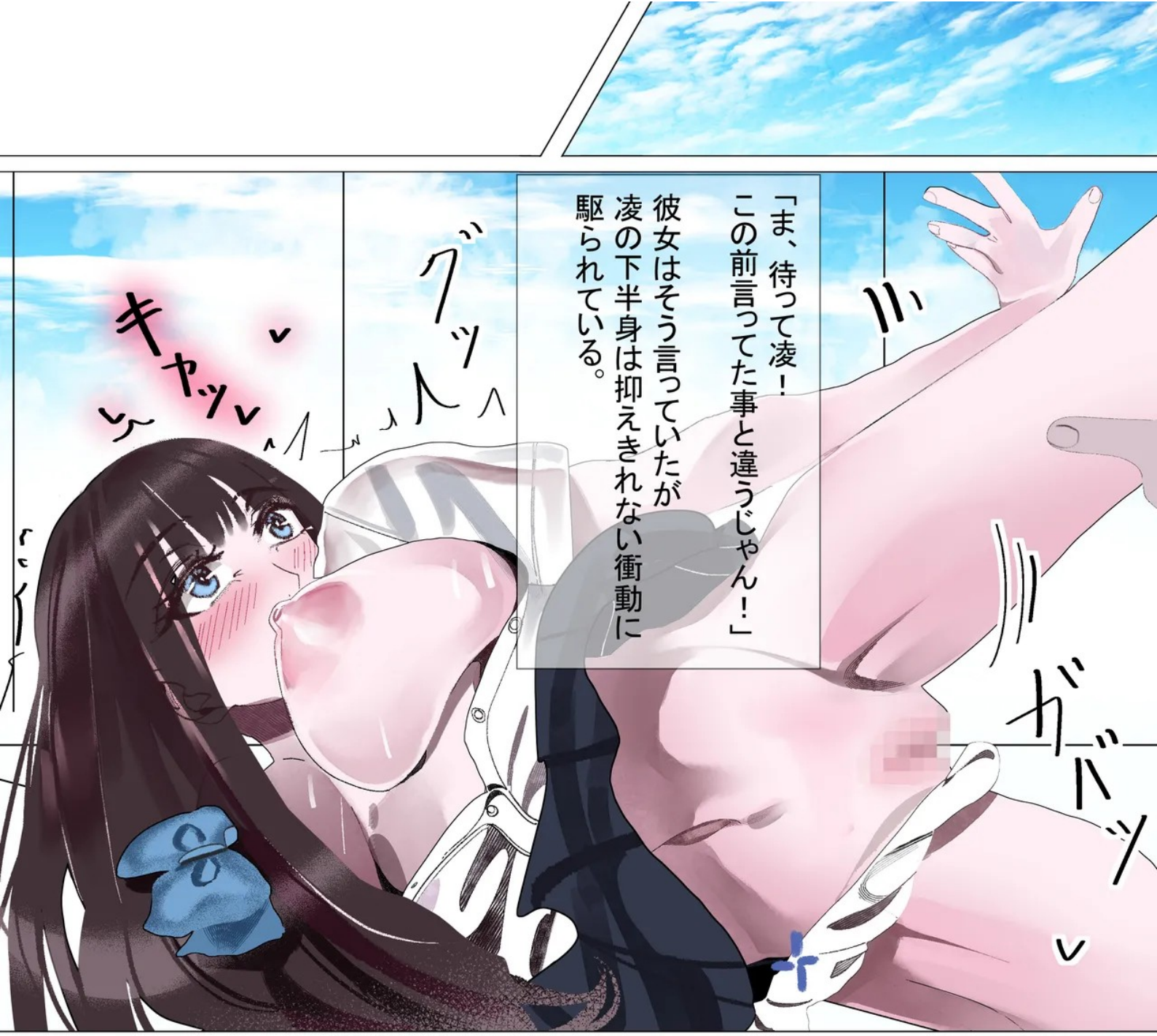
凌とまたこうして帰れるの嬉しい！
転校してからずっと離ればなれだったもんね。
スポーツの得意だった凌は他校からの推薦で度々転校していた。
桜はその度に寂しがったが、それでも凌への想いは変わらなかった。
毎回新鮮な気持ちで恋愛感情を共有したんだ。

挿入はしないという約束で
結局私達は愛撫をし合った。

心で繋がれる感覚は
今まで味わったことのない感情だった。

かけがえのない思い出になる―。

それなのに―。



もう満足するまでやっちゃう？♡

凌とキスした時よりも興奮している。

それを誰よりも感じていたのは、

桜自身だった。

桜は、渡おじさんが
経営しているという
一つに案内された―。
今は使われていない介護施設の

ラインを強制して交換させられ
好意的なメッセージを意図無く
やり取りさせられる。

じゃ、桜ちゃ～ん。
今日もこれ宜しくね。
ぢっ…
クチュ
クチュ
それから数日間に渡り、
私は友達の家に泊まるという名目で
渡おじさんに連れられた。
イラマチオとディープキスを繰り返す
渡おじさんの舌は苦い味がした―。
は～っ♡
は～っ♡
ビッグ
んあっ♡
あっ

しっかり咥えて。
ズプッ
ビッ
ん♡
ズプッ
ビッ
ズプッ
んあっ
そう。
亀頭を舐めとる様に…。
しゅぷ
しゅぷ
くちゅ♡
ヂュ

中出し最高。
桜に種付けしちゃうぞ～
おじさんと結婚しよう。
やだっ
やだっ
ビクッ
ビチュ
ビチュ
ビチュ
ビチュ
ビクッ
ビチュ
孕んじゃうッ！
トンッ
トンッ
あっ！
んっ♡
おっ♡

この薄暗さがおじさんには好都合だったらしい―。

それでも私は

抵抗を試みるけれど、体から溢れ出る快楽にはあらがえない。

凌とキスしていた時に出てきたお股の愛液と同じものが若い少女の体からは溢れ出ていた―。

それから私は、度々おじさんの経営する介護施設の入浴場へ誘われる様になった。
安易に断ることも出来ず、おじさんの好きなタイミングでHなことをされる。
毎日のように近所のその場所へと連れ込まれる―。

下校途中、おじさんに
下半身を触られたら
秘密エッチの合図だ―。
ヌルッ…
ビッ
サス…
ビッ
サス…
ビッ
渡おじさんの触り方はねっとりとしていて
体が敏感に反応してしまう!!
はあ…ッ
ビッ
はあ…ッッ
ビッ
今日もたくさんエッチしようねぇ…。
孕んだら結婚しようか？桜ちゃん。
ビッ

ビッ
ビッ
ビッ
ビッ

んあっ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
トロォ
はーっ♡
はーっ♡
ズブッ
はーっ♡
はーっ♡
はーっ♡
後ろから
挿れちゃうよ～ん。

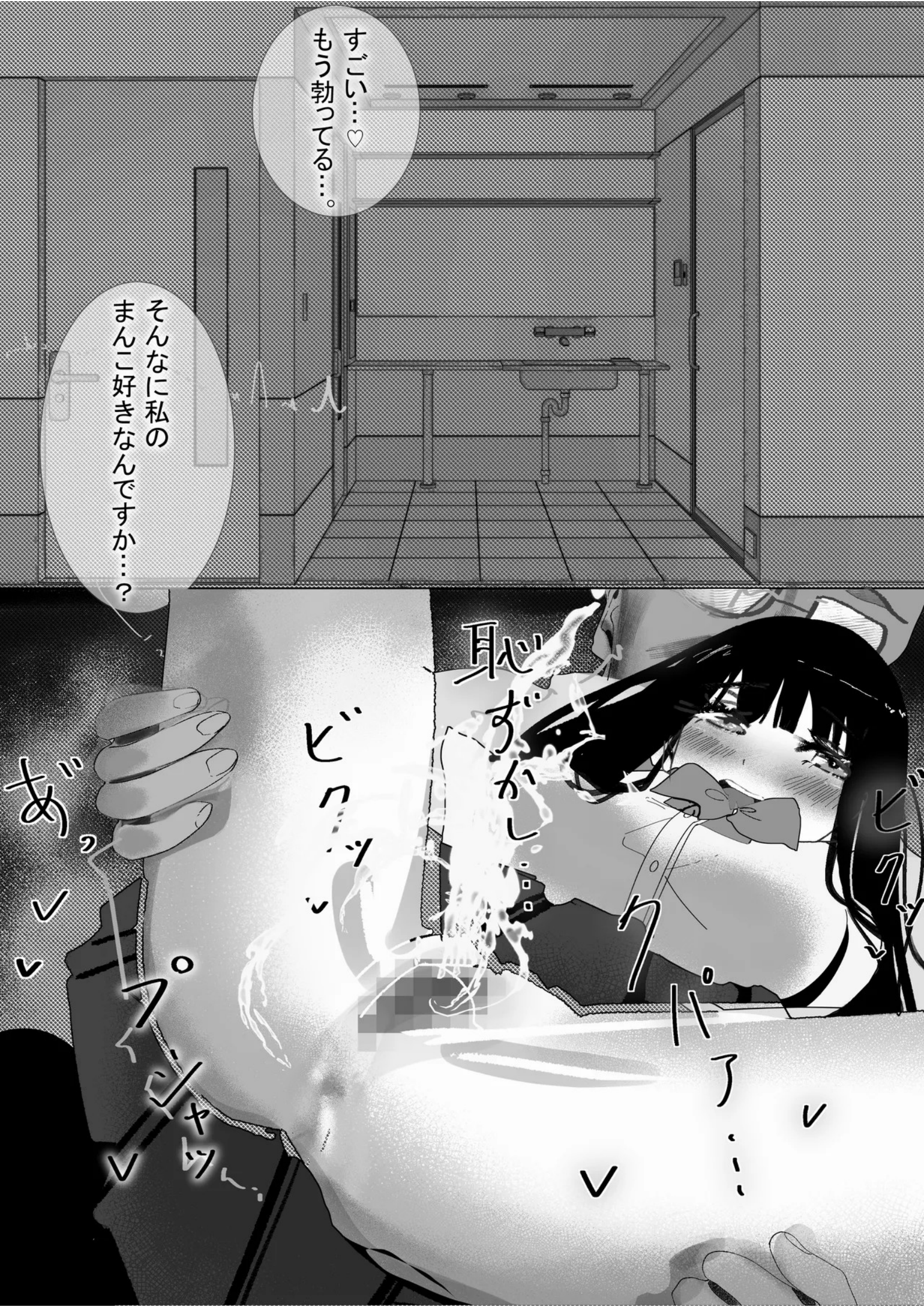
おっ♡
おっ♡
ビュルルッ
ビュルルッ
ズチュ
ズチュ
ブルンッ

少女は渡の寝室に連れられて
さんざんご奉仕をさせられるのだ―。

桜ちゃん、これ終わったら
また別の場所でやろう？

孕むまで
帰さないよ。

木陰の隅で
渡に要求される。


すごい…♡
もう勃ってる…。
そんなに私の
まんこ好きなんですか…？
恥ずかしい…
ビクッ
ビクッ
クパァ…
ぁっ
プシャッ

渡おじさん、そんなにおま●こ開かれたら恥ずかしい///
あっ♡
どうしても桜のおま●こ見たいんだ。
良いじゃないか。
ぷっ
ぷっ
ぷっ

くちゅ
くちゅ
んっ♡挿れてほしい…。
ビッ
パンッ
ビッ
パンッ
ビッ
パンッ
ビッ

ビクッ
ビクン
じゃあ桜ちゃん。
明日も遊ぼうね。
End